

PTA

やまがた

第29号

平成17年3月発行

・編集発行・

山形県PTA連合会

会長 逸見良昭

山形市緑町1-9-30

山形県新築西通り会館内

TEL 023 (631) 0055 FAX 023 (635) 4359

・印刷所・

中央印刷株式会社

山形市銅町1-1-5 TEL 023 (631) 5533



県P連活動スローガン

**「変革の時代、共に学び、共に築き
共に行動するPTAの創造」**

— 子どもたちの永久の笑顔を目指して —

今こそPTAの意識改革を！



山形県PTA連合会会長
逸見良昭

山 形県PTA連合会の運営に對しまして深いご理解とご支援をいただいておりますことに、感謝申し上げます。

本年度「変革の時代、共に学び、共に築き、共に行動するPTAの創造」子どもたちの永遠の笑顔を目指してのスローガンの下、様々な課題・問題に取り組んでまいりました。そして各都市PTA・各単位PTAにおかれましては子どもたちの為に活動していただきました。これからのPTA活動は、主体的に学校教育を支援し、開かれた学校づくりに参加できる協働体制の整備が求められています。その為にはPTAとして意識を変え、子どもたちの視点

に立ち、社会環境・教育環境を見据えた活動を行わなければなりません。また、家庭が教育の原点であり、子どもの躰、人間形成に最も責任を負うものであることを再認識しなければなりません。

さて、私たちを取り巻く社会環境、社会構造が変化する中、教育界において「第三次教育改革」が進められており、完全学校週五日制・新学習指導要領などの教育改革が実施される三年が経とうとしております。この間新たに学力低下問題、二学期制の導入、教育基本法・義務教育費国庫負担金制度の見直しが叫ばれております。本県においては、「さんさんプラン」の小学校全学年への導入、中学校への拡大など教育環境は常に変化しており、本年度から第五次教育振興計画がスタートするなど県内の教育環境も常に変化しております。私たちPTAとしてこれらの教育改革の課題と問題を検証していくことが必要であり急務であると考えます。その一方、子どもたちの関わる事件・事故が後を絶ちません。私たちPTAとして「命の大切さ、尊さ」

を改めて考え、子どもたちに教えるければなりません。同時に子どもたちが発するわずかなサインをも見逃さない事が必要とされます。子どもたちの「真の豊かさ」の実現のためPTAとしての意識を変え、行動・実践しなければなりません。

さて、本年の活動を振り返りますと、数多くの研修会に参加し、事業を開催することが出来ました。八月には旭川で第五十二回全国PTA研究大会北海道大雪圏大会が行われ、県内からも三十名にも及ぶ参加を得、未来を担う子どもたちの為の教育環境を検証し、これからのPTAの方向性を確認すると共に、今後の活動に生かしていきたいと強く感じる大会でもありました。

また、九月には青森に於いて第三十六回東北ブロック研究大会むつ大会が開催されました。本年度本県北村山での開催のこともあり百名近い参加者が、本大会・分科会・運営全般にわたるまで熱心に参加・視察することが出来ました。また様々な場面において北村山大会開催に向けたピーアールの機会を得ることが出来、山形県が心一つになり「おもてなしの心」でお迎えすることを再確認すると同時に、大会開催に向けたスタートの日でもありました。

十月十六日酒田の地に於いて、第五十六回山形県PTA研修大会酒田飽海大会を「みんなの知恵とやさしさで心豊かな子どもを育てよう！」の大会主題のもと県内各地より過去最高の千三百名にも及ぶ会員を得、開催することが出来ました。実行委員会の方々の万全な事前準備と熱意により大変すばらしい大会であったと自負しております。

十一月には、県教育委員会と高等学校PTA連合会との合同教育懇談会が開催されました。「小中高の連携を考える」をテーマに、連携の必要性について話し合われました。親という立場で小・中・高等学校といった意識の差は全くなく、子どもを思う気持は同じであることを再確認すると共に、相互の連携の必要性を感じる事が出来、地域の子どもを実感しました。

最後になりましたが、本会運営に對しましてご理解とご支援を頂いております県教育委員会をはじめとする関係各位に感謝申し上げます。今後もお一層のご指導とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



今、山形県の学校には元気がある



山形県連合小学校長会長
木村康二

今 山形県の学校には元気があります。その元気をくりだしているもの三つのお話をします。

一つ目はPTAです。学校が元気になるよう、いつも支援をおしまないのが本県のPTAです。地方が大事にされるこれからは、その意味では、一つ一つの学校が、地域の特性、そこに住む人々の願いにもとづく特色ある学校になるということが求められています。そこに住む人々、つまり保護者の方々、地域の方々が願いを込めて学校をつくっていくことです。支援を惜しまないというのはそういうことです。そういう思いで、願いを語り合い、主体的に学校をつくっていくのがPTAなのです。

二つ目は、教職員です。PTAの一員として、元気な学校づくりを日常的に推進するのが教職員です。私が言うのも気が引けるのですが、本県の教職員は日本一です。学習指導力、子どもたちに学力を身に付けさせる力に優れています。学校の第一の役割は、子どもたちにきちんと学力をつけることです。毎日、少しずつ学力を身に付け、子どもたちは賢くなっていきます。それが学校の元気をつくっていきます。教職員の学習指導力に責任を持つのが校長です。その意味で、私たち校長が学校の元気のため、ますます努力を積んでいかなければなりません。三つ目は行政です。とかくいろいろ言われがちな教育行政ですが、こゝと山形県に限ってはいいのです。山形県第五次教育振興計画の目標のひとつに「学校を元気にする」を掲げているほどです。これまでも推進してきた「教育山形 さんさんプラン」を中学校にも広げていくということです。これからの地方の時代、県も市町村も、ますます、「教育山形」の自信と誇りを持って、主体的に学校を支援してくれるはずなのです。

『明るく』『元気に』それが子どもたちの活力！ ～酒田・飽海大会～



酒田・飽海大会実行委員長
中川裕太郎

第 五十六回山形県PTA A研修大会酒田飽海大会開催にあたり多くの皆様の御支援と御協力を賜わり厚くお礼申し上げます。

「みんなの知恵とやさしさで、心豊かな子どもを育てよう！」を主題に幕を開けた本大会は近年の子どもたちを取り巻く環境の急速な悪化傾向にあります。本来、子どもが持っている素直さを育み伸ばせるように真の心の教育の重要性を再認識し、家庭の教育力の向上をめざしつつ子どもたちをしっかりと受け止めるための知恵と温かく包み込むやさしさを学ぶ機会にしたいという願いから酒田飽海PTA連合会五十校が足並みを揃え昨年度の準備委員会より取り組んでまいりました。五つの分科会の中で子ども

私たちの視点にたった研修内容をめざし、参加者全員が満足のゆく成果を残したいという思いから、八月の暑いさなかでしたが分科会運営にかかわる総ての方々から酒田にお集まりいただき、事前打ち合わせを開催することもできました。ひとえに皆様の御協力の賜と感謝いたしております。しかしながら万全を期したにもかかわらず不行き届きの面も多々あるかと存じます。皆様にご指摘いただいた課題は課題として素直に受け止め、プラス志向で前向きに次なる大会に引き継いでゆきたいと思っております。それが次世代を担う子どもたちの笑顔に通じるはずですから！世の中、暗いニュースばかりですが、落ち込んでいるばかりでは、この先、前へ進めません。かわい子子ども達の明るく希望のある未来のためには、わたくし達PTAが一丸となり道を切り開いてゆかなければならないはずなのです。

本大会が会員の皆様の次なるステップのためのスプリングボードとなる事をご祈念申し上げ、さらに明日から子どもたちの健やかな成長のために各単位PTAでのご活躍を期待いたしております。明るく元気にそして楽しく、一緒にがんばりましょう！

キーワードは『夢カルテ』

～「つながり」「かかわり」の大切さ！～

山形県教育委員会との合同教育懇親会報告

今年度で4回目を迎えた、山形県高等学校PTA連合会（高P連）・山形県PTA連合会（県P連）と、山形県教育委員会（県教委）との合同教育懇談会が、平成16年11月17日（水）ホテルキャッスルにて盛大に開催された。『小中高の連携を考える』のテーマのもと、田川地区高P連より実践的な話題を提供していただき、活発な意見交換が行われた。県教委からは後藤恒裕教育次長を始めとする9名の参加と、高P連より14名、県P連より21名、県PTA母親委員会より9名の、計53名の参加者によって、有意義で且つ貴重な2時間を共有することができた。



小中高の連携
を考える！
話題提供は、
テーマに基づ
き『田川地区
小中高合同会
議について』
と題し、田川
地区高P連・
鶴岡北高等学

あいさつ

始めに、高P連の笹原孝会長より、「小中高のPTAが協同でつくりあげていくことによって、新しい教育の発想が生まれてくるのでは。」とごあいさつをいただいた。また、県P連の逸見良昭会長からは、「教育には小学校も中学校も高校も隔たりはない。皆で未来を支える子どもたちのために、連携して活動して欲しい。」と力強いお言葉を頂戴した。そして最後に、「幼小中高の連携によって学びの保証と言える、そういう意味で、幼年期から青年期にかかわる、推進役としてのPTAの役割は至って大きい。縦のつながり、連携により、子育ての環境をつくりあげようとするこの会の意見を、大いに参考にさせてもらいたい。」と後藤恒裕教育次長よりごあいさついただいた。

校PTAより、田川地区の取り組みについては発表された。始めに、鶴岡北高の石原純一会長より、これまでの経過について説明が行われた。取り組みの経緯は、「高校ではどのような問題があるのか、小中の保護者に早目に知ってもらう」とする啓蒙活動が目的だったようだ。さつそく十二年度より実施され、毎年さまざまなテーマで話し合われ、今年度で五回目を迎える。十五年度の具体的な取り組みについては、同校の遠藤光恵教諭より紹介された。十五年度の小中高PTA合同会議は、『小中高における進路指導を考える』をテーマとし、「つながり」「かかわり」の二点にポイントを置き行われた。成果として挙げられたのは、「同一テーマのもと、それぞれの立場で率直で具体的な意見が出され、コミュニケーションが図られた。」とのこと。その反面、「子どもの夢をどのようにつなげていけばよいのか。」という課題が残された。子どもたちの健全育成のために、小中高のPTAが一体となり実践していく必要性を、先駆者として示してくれた発表だった。

『夢カルテと新キャリア教育』意見交換は、それぞれの立場と経験から、オープンに行われた。話題の主眼は、話題提供の中で紹介された『夢カルテ』で始まった。『夢カルテ』とは、自分の夢のきっかけや抱負を、小一から高校までファイイルし、さらに、親や教師のコメント等も添えて、自己理解や職業観の育成に役立たせようとするものである。参加者からは、「すばらしい案だ。」「小中高とつなげていければ、夢に近づける。」等の意見が出された。また、もう一つ要となった話題が『新キャリア教育』である。キャリア教育とは、児童生徒一人一人の勤労観・職業観を育てる教育のことをいう。話題は、高校生ボランティアや福祉の話にも及んだが、「キャリア教育の原点は家庭にある。どう生きていくかの人生観を考えさせる必要性がある。」という結論に達した。今、私たちPTAに求められているのは、小中高の「つながり」によって子どもたちの夢を育み、一人一人が違う、自分探しの旅（人生）への「かかわり」を大切にしていくことではないだろうか。そして家庭共育として、父親は子どもたちが社会に出ていくための『勇気』を、母親は『安心』を与えられる存在であって欲しいと願う。

県PTA連合会 母親委員会の本年度の活動



県PTA母親委員長 佐藤 静子

昨年度に引き続き、県PTA母親委員会では「命の尊さ大切さ」というテーマのもと、各地区の子どもたちの成長の様子や問題点、親の関わり方など、意見を出し合い情報を交換しました。そして、山形県の子どもの状況や三世帯同居の多い我が県の、家庭の共育のあり方を話し合って子育ての実態を把握するように努めました。また、人の命を支える「食」に着眼点を置き、心身共に健康に生きるための教育、「食育」について研修し、愛情のこもった手作りの食事や、団らんの必要性を感じました。

真剣に、命の尊さを強く訴え、子ども達に伝えたいと思います。今年度、県母親委員会活動にご理解とご支援をいただいたことに、心より感謝申し上げます。今後とも、山形県全体の子ども達を見守り育てていくために、各郡市の子どもの様子等情報交換し、ネットワークを密にして活動していきたいと思っております。より一層のご支援をお願いいたします。

《活動報告》

- ・ 第一回母親委員会 六月九日
 - 正副委員長選出
 - 活動計画及び情報交換
- ・ 第二回母親委員会 九月十七日
 - 日本PTA研究大会、東北ブロック研究大会報告
 - 情報交換「子どもの共有について」
- ・ 第三回母親委員会 十一月十七日
 - 「県母親委員会だより」作成案
 - 県PTA研修大会報告
 - 情報交換「食育について」
 - 県教育委員会、県高等学校PTA連合会との合同教育懇談会参加
- ・ 第四回母親委員会 平成十七年一月二十一日
 - 「母親委員会だより」作成
 - 今年度反省と来年度に向けて

各地区の活動

- ・ 山形市
 - 活動テーマ「命の尊さ大切さ」
 - 「判断力を養う心を育む」
 - 年三回の委員会開催
 - 拡大母親委員会開催
 - 「マザーズねっとわーく」発行
- ・ 上山市
 - 年四回の委員会開催
 - 講演会の開催
 - 天童・東村山
 - 年二回の委員会開催
 - 母の集い参加
 - 母親委員会だより発行
- ・ 西村山
 - 年間テーマ「いのちの尊さ」
 - 年三回の委員会開催
 - 母親委員会だより発行
- ・ 北村山
 - 各市町村ごとの活動
- ・ 最上
 - 活動テーマ「命の尊さ・大切さ」
 - 年三回の委員会開催
- ・ 地区全員研修会開催
- 「かあちゃんほつとらいん」発行
- 単P活動報告書作成
- 米沢市
- 年三回の委員会開催
- 東置賜
- 地区PTA協議委員会での県PTA親委員会の活動報告
- 西置賜
- 年三回の委員会開催
- 鶴岡市
- 年三回の委員会開催
- 映画上映会
- 東田川
- 東田川母親委員会のつどい開催
- 西田川
- 活動テーマ「子どもの心」
- 年四回の委員会開催
- 酒田市
- 年二回の委員会開催
- 山形県PTA研修大会酒田・飽海大会への協力
- 飽海
- 飽海郡PTA連合会研修大会協力
- 研修講演会
- 「かあちゃんかわら版」発行





県民運動『大人が変われば子どもも変わる』



～地域ぐるみ子ども育成活動への取り組み その5～

親子の地域の ふれあいを大切に

上山市立宮生小学校PTA
本校は、ブドウやサクランボの果樹栽培が盛んで、夏には生居川にホタルが飛び交う自然に恵まれた地域であり、児童数六十五名、創立百二十周年を迎えた学校です。「心豊かでたくましく、思いやりのある子どもの育成」を活動テーマとして取り組んでいます。重点として取り組んできた中から紹介させていただきます。

《安心・安全な地域づくり——地域へ発信》

不審者の絶えない昨今、本校でも子どもたちを地域で守るために事業部を中心に子ども一〇番連絡所を設置。更に安全マップを作成し地区全体に呼びかけました。また、防犯意識を高めるために、母親委員会主催で親子不審者対応講習会も行いました。また、継続して取り組んでいる事業として、自転車の点検や親子自転車講習会を行っています。子どもと一緒に自転

車に乗りながら、地区内の危険箇所を確認したり、乗り方の指導をしたりしています。また、毎月行っている登校指導の際も、大人から挨拶や声かけをしています。

地区の人みんなで見守っているということ子どもたちを感じてもらえる地域づくりを目指しています。

《体験活動を大事に 子どもと共に》

子ども育成会や地区公民館主催のクリーン活動、ボランティア活動や自然学習会等に親子で積極的に参加するように呼びかけるとともに、各地区の子ども会の自主活動（七夕会、夏休み学習会、クリスマス会等）を支援する体制をとっています。また、学年行事も子どもが主体となって企画運営し、親は必要以上に口や手を出さずに見守るといった体験重視の行事を組むようにしています。

このような活動を通して子どもたちとふれあい、また会員同士も輪を広めながら地域の中で子どもを育てる取り組みに力を入れています。

「かわり」で 家庭教育力向上を！

村山市立大久保小学校PTA
一、はじめに
本校は村山市の西部に位置し、学区東側には最上川が流れている。児童数七十五名、PTA数百二十六名である。

『一人一役運動』で全会員が専門部等に所属している。「PTA活動は家庭との連携が大切で、子どもとのかかわりを大切に活動を行うことで家庭の教育力も培われる」と考えて実践してきた。

二、PTA重点研究

学年PTAでテーマを決めて行う実践活動であるが、本年度は「食生活」「心の安定」「生活リズム」の中から項目を選び、具体的行動目標を決めて活動した。学級懇談会や学年行事の中で実践の情報交換を行ったが、三学年では、「いつてらっしゃいタッチ」、一学年では「起きたら時刻を知らせる・時刻を確認する」など、日々継続してできる具体的実践活動が見られた。一方、自己評価や親子評価のあとが大切で、「でき

地区民とのふれあい

寒河江市立田代小学校PTA
本校は、葉山の中腹、実沢川と赤沢川にはさまれた大地に位置し、全校児童八名・家庭数六戸の自然豊かな小学校です。

地区には、育成会・子供神輿会・スキー協議会等の団体がありました。少人数の中で効率よく、かつ内容のある活動が出来ないものかと協議した結果、平成十四年度より各種団体の一本化を実現し、田代小学校PTAの名称のもと活動を展開しております。

一、学習発表会

毎年十一月に行われる学習発表会は、小学生をはじめ先生方・PTA・地区の方々が中心に幅広い年代の方々が参加・鑑賞し、小学生や各種団体の劇や歌、踊りに感動させられる場があります。ひまわり会の踊りや伝統芸能の田代大黒舞、PTAの出し物披露などバラエティーに富んだ、内容の濃い発表会となっております。また、最後に小学生が寒河江市の交歓音楽会で発表した歌声を区民の皆さんに披

地域で育む

PTA活動の創造

藤島町立藤島小学校PTA
本校は庄内平野のほぼ中央に位置し、児童数三百九十五名、創立百三十年を刻む伝統校です。学校・社会教育との連携が進んでおり、PTA活動もその関連性の中で図られています。

一、地域ぐるみの活動推進

地区公民館と学校との融合学習の一つに「大豆栽培」があります。作物を育てる楽しさと大変さを体験することは、心や生きる力を育てますが、学年PTAとしても、夏の盛り除草活動を共に体験し、親子で共に汗を流し収穫への思いを持つことで、食の大切さを実感し合っています。また、稲作栽培でも、田植え・稲刈り・脱穀など親子の共同作業を行い、収穫の喜びを親子で味わっています。

また、地域の青少年育成組織との連携を図りながらPTA活動を進めています。「子育てフォーラム」での会員研修や町民会議主催行事（映画会やお祭りなど）へ参加し、

露します。少人数にもかかわらず美しいハーモニイが体育館に響きわたり、涙する場面でもあります。他に、PTAではお年寄りの送迎も行ってとても喜ばれています。

二、学区民大運動会

この運動会は、小学生を中心に子どもたちと地区民が団結する一大行事で、小学生を中心に、地区民と一緒にふれあいを楽しめる場所でもあります。各種団体が趣向を凝らした競技を実施し、地区の方々が積極的に参加しています。子どもたちによる一輪車のデモンストレーションは目玉の一つで、毎年大きな声援拍手が送られています。

三、おわりに

現状のPTA活動は、会員数の減少により負担も大きくなってきました。今だから学校や地域、各種団体とこれまで以上に連携・協力していくことが急務です。小規模校だからこそ出来る活動、特色ある活動を展開し、子どもたちの健全育成のため充実させていきたいと考えています。

会員同士・親子での交流を深めています。

二、多様な場面で活動推進

専門部が行う活動では、PTAレク大会や会員研修会を通じ、会員の交流や意識向上を図っています。学年PTAで工夫した生活リズム運動に取り組み、健康な子ども達の育成にも寄与しています。また、学校樹木の消毒作業を行ったり、全会員で奉仕作業や通学路安全点検などを実施し、学校内外の環境や安全整備の一役を担っています。

地域PTA活動でも、多彩な活動がなされています。二泊三日の通学合宿で兄弟のような仲間意識が生まれたという試みがあったり、小中合同での地域行事を行い、地域への帰属意識を深めたり、二つの地区PTAがお互いに刺激し合い情報交換しながら活動を進めています。

「子どもの目の高さで・地域みんなの目で」見守りながら、子どもたちが健やかに成長していく事を念じて、PTA活動の更なる充実を図りたいと思います。

地域・学校・家庭三位一体のPTA活動

山形市立第八小学校PTA会長 大風 亨

私達の山形市立第八小学校は、山形市の東北に位置し、近くには馬見ヶ崎川や愛宕山があり『緑と光と風』をシンボルとする自然環境に恵まれた学校です。現在PTA会員数三百七十七名、児童数四百九十一名の中規模校となっております。

この度このように素晴らしい表彰を受賞出来ましたことは、これまで本校PTAを支援して下さいました地域・学校・保護者の皆様のおかげと、心より深く感謝申し上げます。

さて、私達のPTA活動の特色といたしましては、時代と共に変化するPTA組織づくりとPTA会員が自ら企画・運営する積極的なPTA活動、そして地域と密着した社会活動や開校記念行事が挙げられます。

一、PTAの組織づくり

私達のPTAは、時代の流

れに速やか対応をすべく、その組織づくりは固定されたものではなく様々な変化をしてみました。

例えば、これまで事務的な仕事は学校まかせで、それぞれの会議や活動の内容はすでに会長と学校との間で決まっております、保護者が会議や活動の企画立案は出来ない状態でした。そこで平成九年度にPTA三役に事務局制(事務局長)(教頭)・事務局次長(P1・T1)・幹事(P3・T2)を導入し、学校と保護者との結びつきの強化を図り、保護者も活動の企画立案に参加出来るようにしました。また昨年度より、母親の意見をもっと積極的に取り入れたいという目的から母親委員会を専門部と同じ部門といたしました。

二、自ら企画するPTA活動

主なPTA活動といたしましては、各学年で年一回行わ

れる学年行事・広報活動としてのPTA会報『四季』は年三回発行し、地域の方々へ回覧をしています。また、地域の方を先生としての料理教室・地域団体との連携による登下校指導・子どもたちのスキー教室では可能な限り保護者が指導すると言う目的でのスキー研修会等地域・学校・家庭の調和をとりながら積極的に活動しています。これらの活動についても各学年委員長や専門部長を中心とし、今PTAとして何をしなければならぬか、どうすればより多くの会員から参加してもらえるか等を考えながら企画運営しています。また、その集大成といえるのが毎年開校記念日に行う開校記念行事です。

三、開校記念行事

開校記念行事は、開校記念日当日に行う意味を考え、毎年継続して行うと言う条件の

もと平成十二年度の開校記念日から始まり、十六年度で五回目を迎えました。

『ふれてみよう！感じてみよう！知ってみよう！』をテーマに約五十名の地域の方々より先生になって頂き、一・二年生は昔遊び、三・四年生は俳句や絵画や福祉について学び、五・六年生は地域や五堰についての講話を聞くというものです。

まさに、地域・学校・家庭が三位一体となつて行っている行事で、地域の方々と子どもたちの接点をもつけ、子どもたちが良いことをしたら褒めてもらい、悪いことをしたら叱ってもらおう、そういう環境が大切と考えて行っています。

四、キラキラ水路

五十周年記念事業の一つとして山形五堰の一つである御殿席の水を校内に引き込み水の大切さを知るための水路を造りました。これは、二年前よりワークショップを開催し地域の団体・企業・保護者・学校・子どもたちみんなの力を集めるグラウンドワークとい



う手法で作りました。

五、まとめ

私達のPTAの考え方は、「自分たちはここまでしかできません。」と制限するのではなく、ある行事について、「保護者はこういうことが出来ます。学校はこういうことが出来ます。地域はこういうことが出来ます。」と言うようにお互いが得意な力を合わせ結束することにより活動を行って来ました。これからも子どもたちが明るく元気に、学び遊べる環境作りのため頑張っていきたいと思えます。

本校の学区は市の南部に位置し、江戸時代の渡船場として栄えた本合海地区(学区南西部)と国道四七号線沿いにある福宮長坂地区(学区東部)、さらに純農村地帯として古くから形成されている升形地区(学区北部)の三つの地域から形成されています。

保護者及び地域の方々は学校に対して大変協力的で、「おらほの学校」という意識を強く持っています。スポーツ面ではバスケットが二十数年前から保護者会練習を行っており、新庄祭りの囃子指導などは各地域に根ざし伝統的に行われています。

長年に渡り子どもたちの社会力育成のために体験活動を意図的に学校内外において充実させてきた事が評価され「優良PTA文部科学大臣表彰」をいただくことができました。これも関係諸機関の皆

様のご支援の賜と深く感謝申し上げます。

一、小中連携の取り組み

三校PTA連絡協議が発足して二十一年目になります。「八向の子は九年間で育てる」を合い言葉に活動を行っています。

(1) 三校親子クリーン作戦

地域のクリーン作戦を小中児童生徒で企画しています。今年度は道路を中心としたゴミ拾い作業を行いました。伝統的になつていたので生徒たちの企画や保護者の協力体制もスムーズになつています。

(2) あいさつ連動の実施

毎月第三月曜日「あいさつデー」として、各家庭の前や地区内要所で登校する小・中学生にあいさつの声掛けを行っています。昨年度、腕章を作製し活用しています。子どもたちの挨拶はしっかりしています。

(3) 八向学区教育講演会

三校で毎年教育講演会を実施しています。今年度は柿崎ヤス子氏に講演していただきました。案内はPTAのみならず地域にも配布し、参加していただいております。

(4) 生活リズム調査

今年度新たに起床、就寝、テレビ、ゲーム時間等の生活リズム調査を行い、協議会だよりで正しい生活リズムを身につけるようお願いしました。

二、ボランティア活動の活性化

(1) 八向地区中・高校生ボランティア Z E A Lの支援

Z E A Lは平成十四年度に結成し、現在会員は、高校生四十七名です。小中学生はその都度、活動の度に募集しています。活動内容は小中学校への行事の支援や地区の要請に応じています。PTAでは交通費や昼食等を支援してい

ます。今後地域ボランティアとして広げていきたいと考えています。

(2) PTAボランティア

PTAでも以下のような活動を行っています。

- ・資源回収(親子)年三回
- ・親子作業(草刈窓拭き等)
- ・理事作業(戸や壁面の塗装)
- ・学年ボランティア活動

三、学校教育活動の支援

(1) 防災体験学習の実施

体験活動の拡充、支援の一環として休日に消防団の協力を得て、以下のような防災体験学習をおこないました。

- ・避難訓練(負傷者運搬)
- ・操法見学および体験
- ・ポンプ車による放水見学
- ・炊き出し(母親委員会指導)

地域の担い手という意識も強まり、緊急の際は協力したいという感想もありました。

(2) 親子合唱祭の開催

夜間に八回練習し文化祭や市民音楽祭で親子合唱を発表しています。

四、家庭の教育力向上講座

平成十五年度は子育て講座を四回行いました。その際、学区内の二小学校からの参加



五、今後の課題

消防団などの地域の人たちや保護者の活躍を目の当たりにしたり、生徒も一緒に活動することにより地域の担い手という意味も強まりました。生徒の体験活動を充実させていくには、今後もPTAだけでなく地域の指導者に協力していただく体制が必要です。学校やPTA役員が主体でなく、地区の指導者を中心とした社会力を高める地区行事・体験活動を企画してもらえような組織作り、地域教育力へとつなげていきたいと思えます。

主体的に学校教育を支援するPTA活動

新庄市立向中学校PTA会長 監 物 秀 隆

昨年十一月十九日に東京ホテルニューオータニで開催された年次表彰式において、山形市立第二中学校は「日本PTA全国協議会会長表彰」をいただきました。今回のこの栄えある表彰は、開校以来精力的にPTA活動及び学校教育にご尽力されてきました、歴代の校長先生初め、歴代のPTA会長、役員、会員の皆様、地域の皆様そして二中学区の小学校の方々並びに本校先輩教職員のご協力の賜と深く感謝申し上げます。

諸先輩方々の山形二中を想う心の、積み重ねがこのような素晴らしい表彰を頂いたこととは言うまでもありませんが二中の歴史、多くの方々の努力が実ったものと誇りに思うところでございます。「継続は力なり」の大切さも再認識させられました。

表彰式は文部科学大臣表彰も含め二百五十五団体、二百六十六個人の表彰が行われ、全国から大勢の受賞者があつまりました。文部科学大臣中山成彬代議士からは、国家戦略としての新しい基板は人づ

くりであり、教育改革は二年間で取り組む姿勢が示されました。①教育基本法の改正、②学力向上(子どもたちを世界のトップクラスへ)、③教員の質の向上、④現場主義(市町村毎の現場経営)、⑤義務教育の国補負担廃止の五項を掲げる内容です。また、PTA会員の方々には、誉めよう・叱かろう・励まそう、

をスローガンに六百三十六名の全校生徒に五百八十七名の会員と教職員三十八名から構成されています。輝かしい歴史と伝統を継承しながら、文武両道・質実剛健な校風を大切にし、地域とともに子どものために活動を行っています。五つの専門部が中心となって役割を分担しており、PTA

意見交換を行い子どもたちの安全を守るなどの活動も積極的に行われております。「特色ある学校づくり推進委員会」を設置し地域とPTAがタイアップしての活動などは珍しいと言えるでしょう。山形二中の生徒指導の中に長く受け継がれた生活実践目標「五垂の泉」があります。

日本PTA全国協議会会長表彰

子どものために 地域と共に全員参加のPTA

山形市立第二中学校父母と教師の会会長

栗田 稔

三つの言葉をもって、自分の子どもだけを大切にすることでなく他人の子どもにも同様に接してほしいとの願いもありました。

ここで、山形二中のPTAの活動を紹介させていただきます。正式名称は「山形市立第二中学校父母と教師の会」で、「子どものために 地域と共に 全員参加のPTA」

動等の支援、資源回収、郊外巡視活動、校内環境美化活動、そして母親委員会活動など活発に行っています。

中でも親子活動が充実しており、地域の一斉清掃を親子で行う二中クリーン作戦、クラブ活動では、休日を利用して親子活動日などがあり親子で汗を流す場も設定されています。また、地域の方々との

一、常に明るく
はい・ます・です
一、いつも正しく服装礼儀
一、守れ安全右側歩行
一、大切に生かして

つかえ公共物
一、常にしっかりと後始末
人間教育に欠かすことの出来ない五項目で、当たり前のことを当たり前に行動することを育てる内容です。

われているように思います。

蚕の飼育活動

六月になると毎日が蚕の飼育になります。この活動は、学校と地域、PTAの連携のもとに行われます。授業日には、子どもたちが地域の先生

(蚕先生と農協の専門家)の指導を受けながら世話をし、土曜、日曜は保護者としてPTAが関わります。主に桑取

知れません。しかし、祖父母世代、父母世代、そして子どもたちと時代を越えて、互いに語り合い、つながり合える蚕桑ならではの地域活動といえます。

学習活動の充実

今年度の重点に「子育てに関する学習会や会員同士のコミュニケーションを深める場を積極的に企画する」という

特に、母親委員の学習会から生まれた「絵本読み聞かせボランティア」は、今年で二年目を迎えました。学んだことを生かしていくという生涯学習のお手本のような活動ができたことは、嬉しいことですし、新しいPTA活動のありかたを考えさせられました。

地域のコミュニティが希薄になった今だからこそ、大切にしたいと思います。また、学びという事についてですが、ただ学んで終わりというのではなく、学びを家庭や地域で生かしていくことが必要だと考えています。学んだことが実践されてこそ、私たちPTAのねらいが達成されたことになると思います。到達点は、まだまだ先のことと思いますが、受賞を励みながんばっていくつもりです。

日本PTA全国協議会会長表彰

地域を生かしながら 学び合うPTAをめざして

白鷹町立蚕桑小学校PTA会長 田苗 政一郎

蚕桑地区のこと
当地区は、蚕桑の名が示すとおり、養蚕業中興の祖である上杉鷹山が、養蚕に適した土地として着目した歴史を持つています。最盛期の明治初期には、養蚕農家が百五十戸あり、繭生産の収益も多かったですといわれています。

現在、当時の栄華をみることはできませんが、養蚕農家は確かにありますし、地域の方々の心の奥で、お蚕様が飼

りや桑やりを子どもたちといっしょに行います。枝から桑の葉をもぎとる作業は、単純ではありますが、自分の心にある原風景を思い出すきっかけになりました。作業をしながら、自分の子ども時代の思い出を語ることができました。

蚕の飼育活動とPTA活動は、一見無関係に思えるかも

ことを掲げました。PTA活動を生涯学習の場としてとらえ、主体的に参加し、学ぶことを通じて、家庭の教育力向上をめざしました。

結果的に、学年部や母親委員、そして専門部である研修部の活動がとても充実しました。受け身でなく、自分達で企画し運営するという積極的な姿を見られました。

今後のこと

今年度は地域のふれあいと学びをキーワードに活動してきました。

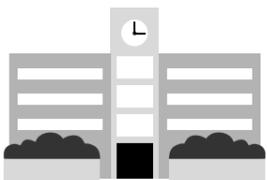
蚕の飼育活動や学習会の取り組みは、PTAの成果としてあげられます。

今後、がんばりたいことはPTA活動を潤いのある人間関係づくりに役立てていくことです。様々な活動に主体者



山形二中のPTA活動も子どもたちと共にこの精神で歩んでおります。

平成十七年度の「山形市PTA研修大会」は、山形七小・西小・宮浦小・山二中の四校が主管校となり準備に取り掛かっています。これを機会に地域の絆が強くなる事と、全員参加のPTAに発展するよう努力していきたいものです。



として参加し、悩んだり、楽しんでいながら地域人としての自覚が育っていけばいいと感じています。

地域のコミュニティが希薄になった今だからこそ、大切にしたいと思います。

また、学びという事についてですが、ただ学んで終わりというのではなく、学びを家庭や地域で生かしていくことが必要だと考えています。学んだことが実践されてこそ、私たちPTAのねらいが達成されたことになると思います。到達点は、まだまだ先のことと思いますが、受賞を励みながんばっていくつもりです。



★平成16年度 第32回子どもの遊びと★ 生活災害事故防止ポスターコンクール審査結果

入賞誠におめでとうございます。今年の県内からの応募数は、261点でした。その中から慎重に審査した結果、下記のように入賞者が決定しました。

最優秀賞 6点

柿崎和也 (新庄市立升形小学校1年)	さとうりょう (真室川町立小又小学校1年)
佐藤拓也 (最上町立満沢小学校3年)	小嶋貴也 (新庄市立萩野小学校4年)
長南和哉 (大蔵村立沼台小学校5年)	安食かおる (戸沢村立戸沢小学校6年)

優秀賞 13点

ゆうき かいり (最上町立赤倉小学校1年)	さとう かずま (真室川町立釜淵小学校1年)
佐藤賢治 (真室川町立安楽城小学校2年)	阿部 祐治 (新庄市立新庄小学校2年)
奥山美里 (真室川町立及位小学校3年)	井上 拓磨 (真室川町立安楽城小学校3年)
阿部真子 (新庄市立新庄小学校4年)	阿部 未奈子 (新庄市立泉田小学校4年)
高橋聡希 (戸沢村立神田小学校5年)	竹澤 智洋 (最上町立月橋小学校5年)
伊藤愛理 (鮭川村立鮭川小学校6年)	佐藤 さつき (真室川町立平枝小学校6年)
海藤和也 (大蔵村立沼台中学校1年)	

優良賞 21点

安食幹太 (戸沢村立角川小学校1年)	はしみふみひろ (新庄市立日新小学校1年)
くろさかよしき (真室川町立真室川小学校1年)	佐藤 智夏 (真室川町立及位小学校2年)
大友萌子 (戸沢村立古口小学校2年)	津田 佐和子 (新庄市立沼田小学校3年)
柿崎優佳 (大蔵村立肘折小学校3年)	高橋 潤 (真室川町立平枝小学校3年)
五十嵐 春香 (鮭川村立曲川小学校3年)	佐藤 正人 (大蔵村立沼台小学校4年)
佐藤晴生 (舟形町立堀内小学校4年)	柿崎 晶久 (真室川町立平枝小学校4年)
佐藤季奈 (新庄市立新庄小学校5年)	井上 将哉 (真室川町立平枝小学校5年)
星川拓也 (新庄市立沼田小学校5年)	中島 菜緒子 (大蔵村立沼台小学校6年)
黒坂琳々子 (新庄市立日新小学校6年)	田中 大地 (大蔵村立肘折小学校6年)
板垣恵理 (大石田町立大石田第一中学校1年)	奥山 恵 (新庄市立新庄中学校3年)
佐藤 好 (大蔵村立沼台中学校3年)	

連続受賞！ 文部科学大臣賞

—— やっぱり宗族っていいナ～三行詩・写真コンクール ——

昨年は、三行詩の部で小学生が、本年は写真の部で一般会員が見事文部科学大臣賞を受賞しました。誠におめでとうございます。

文部科学大臣賞（一般 写真の部）

高橋 浩幸氏 (真室川町及位)

「食い初めの日」



三行詩部門 佳作

柴崎 彩乃 (山形市立東小1年)

おばあちゃんからきいた。
おとうさんは、
おばあちゃんのこどもなんだって。
おばあちゃんがこどもをうんだとは、
おもわなかったよ。

来年度も奮って応募してください。

栄えある表彰 おめでとうございます

今年度、県PTAや郡・市PTA、単位PTAにご尽力なされ、多大のご功績をあげられた団体・個人の方々に感謝状や表彰状が贈られましたのでご紹介いたします。

優良PTA文部科学大臣表彰

山形市立第八小学校PTA
新庄市立八向中学校PTA

日本PTA全国協議会会長表彰

◇団体

山形市立第二中学校父母と教師の会
白鷹町立蚕桑小学校PTA

◇個人

五十嵐 彰 (前県P連副会長)
佐藤 勝彦 (前県P連副会長)
佐藤 輝夫 (前県P連副会長)
間宮 尚江 (前県P連理事)

東北PTA連絡協議会会長表彰

☆表彰状

◇個人

斎藤 正裕 (前県P連理事：上山市)
佐東 幸治 (前県P連理事：天童東村山)
芽野 博 (前県P連理事：最上)
吉田 良司 (前県P連理事：東置賜)
今野 安治 (前県P連理事：鶴岡市)
鶴巻 文臣 (前県P連理事：東田川)
荒生 慎次 (前県P連理事：飽海)
松倉 慶子 (前県P連理事：北村山)

◇団体

天童市立長岡小学校PTA
大蔵村立南山小学校父母と教師の会
長井市立長井北中学校PTA
飽海町立山戸小学校PTA

優良PTA県教育委員会表彰

山形市立第八小学校PTA
河北町立西里小学校父母と教師の会
大石田町立鷹巣小学校PTA
山形市立第二中学校父母と教師の会
新庄市立八向中学校PTA
白鷹町立蚕桑小学校PTA
高島町立第四中学校PTA
酒田市立松原小学校PTA
鶴岡市立上郷小学校PTA

県PTA連合会会長表彰

☆感謝状

五十嵐 彰 (前県P連副会長：山形市)
佐藤 勝彦 (前県P連副会長：酒田市)
佐藤 輝夫 (前県P連副会長：北村山)
斎藤 正裕 (前県P連理事：上山市)
佐東 幸治 (前県P連理事：天童東村山)
芽野 博 (前県P連理事：最上)
吉田 良司 (前県P連理事：東置賜)
間宮 尚江 (前県P連理事：西置賜)
今野 安治 (前県P連理事：鶴岡市)
鶴巻 文臣 (前県P連理事：東田川)
荒生 慎次 (前県P連理事：飽海)
鈴木 登 (前県P連理事：教職員代表)
松倉 慶子 (前県P連理事：北村山)
二位関 賢一 (前県P連監事：山形市)
渡辺 敏行 (前県P連監事：西村山)
志田 祐二 (前県P連監事：教頭会)

☆表彰状

武田 岳彦 (前山形市P連)
松田 善信 (前山形市P連)
町田 誠二 (前山形市P連)
安達 良一 (前山形市P連)
佐藤 護 (前山形市P連)
東海林 健治 (前天童東村山)
飛塚 恭子 (前天童東村山)
山崎 政彰 (前西村山P連)
大山 恵也 (前北村山P連)
阿部 弘明 (最上地区P連)
伊藤 欽一 (最上地区P連)
沖野 誠 (東置賜P連)
佐藤 昌保 (酒田市P連)
江口 暢子 (酒田市P連)
後藤 保喜 (飽海郡P連)



かかわりの中で育てよう たくましく生き抜く子どもたちを

＝日本PTA全国協議会第37回東北ブロック研究大会北村山大会＝



北村山大会準備委員長
金澤 信明

昨今、子どもの衝撃的な犯罪や、子どもが巻き込まれたりするなど憂慮すべき事件が多発しています。どのような時代であっても、心豊かにたくましく生き抜く子どもを育てることこそ、親や社会全体の責任であることを自覚し、まずは、全ての教育の原点である家庭教育の重要性を再認識して、地域ぐるみで子どもたちを守り、育む取り組みがPTA活動に求められています。

このような状況の中で、本年、来る九月十日、十一日の両日、北村山地区三市一町（村山市、東根市、大石田町）を会場に日本PTA全国協議会第37回東北ブロック研究大会北村山大会が開催されます。

北村山地区は、県内でもとくに三世代同居世帯の多い地区ですが、四季折々の自然の中で世代間の交流が行われ、子どもたちの感性を豊かに育んできました。また、ふるさとの素晴らしさを子どもたちに伝えていこうと、地域を挙げて取り組んでいます。

この「北村山らしさ」を本大会のテーマ「かかわりの中で育てよう、たくましく生き抜く子どもたちを」と夢と未来を語り合おう、東北のどまんなかで」に掲げ、「三世代の協力による子育て」から、「地域社会での子育て」まで「かかわり」を通し、たくましく生き抜く子どもたちの夢と未来を、東北各地で活躍されている仲間と共に熱く語り合いたいと考えております。

のどかに広がる田園地帯、悠々と流れる最上川、そして田舎料理と人情味溢れる北村山の地へ、皆さんのお越しを心からお待ちしております。

平成16年度山形県PTA連合会役員名及び事務局員名

役職	氏名	所属地区PTA	所属PTA	役職	氏名	所属地区PTA	所属PTA
会長	逸見 良昭	山形市PTA連合会	山形八小	理事	菅原 久継	西田川郡PTA連合会	温海中
副会長	遠藤 正明	山形市PTA連合会	山寺小中	〃	阿部 求	飽海郡PTA連合会	飛鳥中
〃	中山裕太郎	酒田市PTA連合会	酒田一中	〃	阿部 忠彦	県小学校職員代表	山形南小
〃	金澤 信明	北村山PTA連合会	楯岡中	〃	森田 敏郎	県中学校職員代表	酒田三中
〃	熊坂 恵一	西村山PTA連合会	陵南中	〃	佐藤 静子	山形市PTA連合会	山形五中
理事	鏡 義宣	上市市PTA連合会	上山南小	〃	加納ひろ美	最上地区PTA協議会	日新中
〃	吉田 隆	天童東村山地区PTA連合会	天童四中	監事	高橋 和典	山形市PTA連合会	山大附属小
〃	高橋 欣也	最上地区PTA協議会	新庄小	〃	木村 晃	西村山PTA連合会	上山東小
〃	濱田 淳	米沢市PTA連合会	米沢一中	〃	椎名 和美	山形市PTA連合会	蔵王二小
〃	伊藤 昌弘	東置賜地区PTA連合会	亀岡小	事務局長	佐藤 恂一	山形県PTA連合会	
〃	安部 義裕	西置賜地区PTA連絡協議会	致芳小	事務局員	高橋 邦孝	〃	
〃	石川 原三	鶴岡市PTA連合会	朝陽一小	〃	佐藤 洋子	〃	
〃	北川 久	東田川郡PTA連合会	余目中	〃	熊谷 慶子	〃	



来年度の主な行事予定

- ◆ 日本PTA広報紙コンクール 応募締切 4月22日(金)まで
- ◆ 各・郡市より諸報告提出締切 6月1日(水)まで
- ◆ 第一回県PTA理事会議 6月15日(水)10時30分
- ◆ 平成十七年度県PTA総会 6月24日(金)13時30分
- ◆ 東北PTA大会分科会事前打ち合わせ 7月5日(火)13時
- ◆ 日P全国研究大会愛知大会 8月26日(金)～27日(土)
- ◆ 東北研究大会北村山大会 9月10日(土)～11日(日)
- ◆ 県教委と高校P連との合同教育懇談会 11月16日(水)予定

あとがき

今年も全国的に不審者による声かけ事案等が相次ぐ中、かけがえない子どもの命を守るために、学校やPTA、地域住民が一体となり、子どもたちが安心して登下校できる環境づくりが求められています。(J・S)